



ささきじゅんこ 議員 佐々木純子

地方創生 戦略実現のポイントは

【答】大人の姿勢が大切

問 地方創生では人口が減る現実を子どもと親とで学び、何ができるか理解しあうことが大切ではないか。

町長 人口減少について、町民の認識が大切。総合戦略に一致団結して取り組む。

問 地域の現実を知り、考えを共有するために、教育振興運動の中で何かできないか。

教育長 地域をどうするか目標を定める



花だん整備を手伝う中学生（社会参加活動）

実践するには、大人も理解しないとできない。人づくりのための教育振興運動ではないかと思っている。

リノベーション

問 日詰の取り組みは、住民の立場で進めているか。

企画課長 取り組みを一戸一戸説明しながら関係世帯を回る予定である。

いこいの家

地域のつながりの強化を

【答】見守りにも活用

問 「いこいの家」に來ない人たちを調べることで、内容を深めることができるのでは。

長寿健康課長 調べて知ること、は大事である。

「いこいの家」は認知症対策にもつながると考えている。

問 地域の実情が集まることで、地域のコミュニケーションを強めることができるのではないか。

長寿健康課長 二次的に情報を得ることができ、見守りの輪が広がることにつながる。

問 地域で取り組む介護予防の活動に対してできる支援はあるか。

長寿健康課長 健康は自分でつくるものであり、地域自ら発生した動きに対して行政も手助けしていく。



サロンで週1回のおたのしみ

一般質問



ふじわらしゅういち
藤原修一 議員

ふるさと納税

町の取り組みは

答 特産品を知ってもらおう機会に

問 平成27年度のふるさと納税の実績は、

町長 2月末時点で22件(233万5千円)となつている。2万円以上の寄付金にお礼の品を贈呈している。

問 目標とする数値はあるか。

町長 寄付者の厚意によるもので、数値の

設定はそぐわないものと認識している。

問 当町と似たような特産品で全国上位の寄付を集めている自治体もある。もっと積極的な対応をしてはどうか。

副町長 ホームページの工夫や、税金控

除の周知を行っていき

たい。

返礼品の種類を増やすことで、多くの事業者に参加してもらうとともに、寄付者に町の特産品を知っていただく機会として広げていきたい。



今のところ、返礼品4種

消防団

平日対応できる団員体制を

答 団員と機能別団員の加入呼びかけ

問 火災発生時の初期消火作業における地元消防団の役割は非常に大きいですが、日中の火災に対応できる消防団員の現状は。

町長 町の消防団員は530人で、多くが町外に勤務している。町職員の消防団員や、退職団員による機能別団員が対応している。

問 機能別消防団員の活動範囲と人数は、日中における地元火災現場に限定

町長 消防団員の待遇改善と保険内容は、善と保険内容は。

町長 防火衣、水防活動時のライフジャケットの配備、費用弁償や出勤報酬の見直しなど処遇改善に努める。消防団員公務災害補償制度や退職時の報奨金制度がある。



出動に備えて